

「学生のおもしろ企画・大学祭企画」実施報告書

※整理番号：6

企画名
移動式映画上映装置-下見のまちと学生をつなぐ映画上映のための仮設空間構築-
実施日
【制作】平成26年8月25日～平成26年9月30日【イベント実施】平成26年10月1日～
実施場所
【制作】工学部A2棟7階 A2-732 芸術制作室
企画代表者の氏名、所属
氏名：津田康平 所属：工学部第4類建築学過程4年次
構成員の氏名
広島大学：内田和音 伊勢本尚也 前田凌児 原田慎平 奥田美香子 天野真登 近畿大学：武中正英 城戸えりな 津曲隆太 田中ちえり 渡辺ほのか 蓑原梨花 大村絵理子 他
指導的立場の教員氏名
田中 貴宏 准教授 (建築学)
企画の目的及び内容
本計画は、下見地区でのまち歩きワークショップを発端として、まちの中にある、駐車場などの有効活用されていない空間にて、映画を上映することで、それらの空間をまちへと開放し、魅力のある空間として利用していくことを目的とする。 街頭紙芝居をモチーフに、トラックの荷台に載るサイズでスクリーン、スピーカーを内蔵した上映装置を設計、制作する。そうすることで、1回性のイベントとしてではなく、誰でも再現可能な出来事として、気軽に映画を上映することができる。そして、これを自作自演的に利用していくことで、まちの冗長性を促す。
来場者数
140名(1日目:ガレリア50名 中央図書館前10名,2日目:ガレリア50名 中央図書館前30名)
主催・後援団体(外部のコンテスト等に参加する場合は、そのコンテストの規模)
共催 (株)プランニングサプライ、たのしーの下見会、(有)サンコーオート
活動の内容(準備、広報活動、当日の様子等)
【設計段階】 軽トラックに乗るサイズと、下見のシンボルとなるような親しみやすいデザインにすべく、建築学生団体 scale の広島大学、近畿大学4年生で設計を進めていった。初めて経験する実施だったこともあり、不確定要素も多く残したまま、制作へと移った。 【制作段階】 接合部のほぞや、スクリーンの可動部分などについて、まずは、1分の1のモデルをつくり、確認することから始まった。工具の扱いもままならなかったが、このモデルを作ることで、各自確認していった。その後、scale1年生から3年生も呼び、総勢20名近くのメンバーで、制作を行った。不確定要素は作りながら決めていき、9月25日に完成した。また、端材にて、椅子の制作も行った。 【実施段階】 制作した移動式映画館などの活動をパネル化し、東京で行われた全国建築学生WSにて、展示を行った。大学祭では、昼間はガレリアにて、短編映画の、6時から中央図書館前にて、長編映画の上映を行った。長編映画上映時は、ポップコーンとラムネの提供も行った。また、11月半ばには、広島国際映画祭での短編映画上映、下見地区の駐車場での上映会と場を盛り上げるための活動を予定しており、現在も進行中である。

「学生のおもしろ企画・大学祭企画実施報告書

アンケートの結果（来場者にアンケートを実施した場合のみ）

アンケートは実施せず。

成果・課題

- 企画の段階から、下見地区の住民と話し合いながら行っており、軽トラックの貸し出しや、上映場所の提供など、多くのサポートをいただくことができた。地域と学生をつなぐための大きな一歩だといえる。
- 近隣大学の建築学生と共同で制作を行うことで、両学生間に強いつながりできた。今後もこのつながりを維持し、繋げていく。
- 学園祭の展示では、訪れた多くの方が、興味を持って見てくれた。ただ、趣旨や目的が、展示だけでは伝わらないので、パンフレット等で伝える必要がある。また、天候や学祭の展示だということもあるが、長時間座って映画を鑑賞するという人は少なかった。上映場所や上映作品の選定、上映の告知等は、今後の課題である。
- 学園祭後の保管場所や、上映日程など、企画として練られていない部分が多々あった。今後下見のシンボルとなるよう、活動内容を具体的に決めていき、運用していきたい。

実施風景（写真）

